

愛の妖精 —La Petite Fadette—

日時：2010年7月19日(月・祝日) 18:30～(18:00開場)
 場所：銀座文化サロン (銀座3丁目11-11 銀座参番館2ビル 8F
 03-6638-6454 最寄駅:東京メトロ「銀座」、都営浅草線「東銀座」)

参加費：2000円(ワイン付) ～定員 30名様～

主催:㈱エモア ㈱アイ・ヴィー・シー 共催;㈱日本伝統芸術国際交流協会



18:30～ 開会 上映 『愛の妖精～La Petite Fadette』 2004年制作 フランス作品 カラー94分
 原作:ジョルジュ・サンド (1804～1876)

監督: ミカエラ・ヴァトー 出演: ジェレミー・レニエ(ランドリ)/ メラニー・ベルニエ
 (ファデット)/ アニー・ジラルド (ファデ婆さん)/ リシャール・ポーランジェ
 (バルボ・父)/ マキシミアン・ミュラー(シルヴィネ)他

20:20～ 講演 吉村 葉子 さん (作家 『お金がなくても平気なフランス人

お金があっても不安な日本人』等著書多数。

神楽坂、焼き菓子&サロン・ド・テ『ジョルジュ・サンド』オーナー)



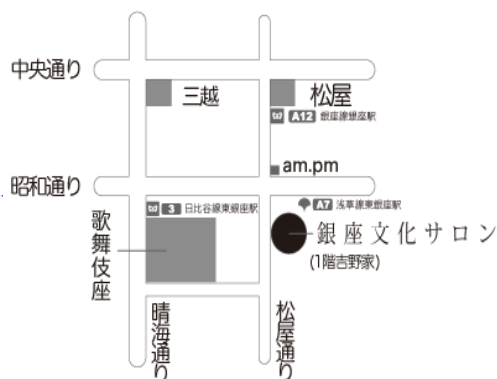
20:50～ 懇親会

<作品紹介>

原作者のジョルジュ・サンドの名は誰もが知る程ですが、彼女の小説を実際に読んだ人は意外と少ないのではないのでしょうか? ピアノの詩人ショパンやロマン派の詩人ミュッセを始めとする多くの著名人との華々しい恋愛遍歴や、『男装の麗人』とのエピソードばかりが先走り、一般的にはその文学的な価値が正当に評価されていないのかもしれませんが。しかし、ドフトエフスキーはサンドを評して「人類が持っているより幸福な将来像を最も明瞭に洞察していた作家」と、最大級の賛辞を述べています。その彼女の代表作『愛の妖精』を、女性監督ミカエラ・ヴァトーがほぼ原作に沿って映像化した上映作品は、サンドの故郷フランス中南部・ベリー地方の美しい田園地帯を背景に、叙情豊かに綴られています。ファデットの性格と精神的環境はサンド自身の少女時代をモデルにしたものともいわれ、ただ単なる奇麗事の恋物語にとどめず、農民社会のかたくなさ、差別や因習などに対しては、サンドの鋭い感性の目が向けられています。なお、原題の『可愛いファデット』にもある主人公‘ファデット’、そして‘ファデ婆さん’の名前にある‘ファデ’は、プロヴァンス語では‘妖精’の他にも、‘鬼火’をも意味するようです。

<会場案内; 銀座サロン 日本アジア芸術協会内>

銀座3丁目交差点(昭和通りと松屋通りの交差)にある ampm の、通りをはさんだ向かい側の角から1つ目にある吉野家のビル 8F。吉野家右隣にビル入り口のインターホンがありますので、801 呼 と押して頂ければオートロックを解除致します。



<ご参加頂けます方へのお願い>

準備の都合上お手数ですが、この用紙での Fax, 又は E-mail でご返信を頂けますと有難く存じます。(定員になり次第締め切らせて頂きます)

参加可能

Tel & FAX: 03-3456-5074

MAIL: naomia@hotmail.co.jp

(株)エモア(湯浅)

お名前

ご連絡先(PC アドレス/ご住所・お電話番号)

場 所: 東京都中央区銀座3丁目11-11 銀座参番館11ビル8階
 特定非営利活動法人日本・アジア芸術協会内
 アクセス: 東京メトロ銀座線「銀座駅」A12出口より徒歩4分
 東京メトロ日比谷線「東銀座駅」A3出口より徒歩3分
 都営浅草線「東銀座駅」A7・A8出口より徒歩1分